

学校の教育活動から

〇楽しかった“あそまつり”！

7日（土）に“あそまつり”を行いました。子ども達は、「カラフルスライム」「わなげでワ－イ！」「ふわふわロケット」「泳ぐタコ？！」「ギョウザの皮ピザ」「バルーンアート」「わりばしでっぼうを作ってあそぼう」の7つのブースを回って楽しみました。当日は、次年度小学1年生になる年長さんも来校しており、その子たちに優しく接する在校生の様子も見られました。年長さんの子たちは、楽しい活動と優しいお兄さんやお姉さんがいる麻生学園小学校のことがきっと好きになったことでしょう。



感じたことから

〇水を与え続ける努力のうちに・・・

1年生の子ども達が教室の外でアサガオを育てています。毎日、しっかりお世話をしているのでもみるみる葉を茂らせ大きく育てています。

そうした中、ある子が「ぼくのアサガオも、葉が大きくなってきたよ！」と教えてくれました。指さす鉢を見てみると確かに他の子に比べ、葉の茂り方は小さいのですが、しっかりと葉が育っています。私は「本当だね、これからみんなのアサガオに追いついて追い越すくらい大きくなるかもしれないね。」と話しました。

きっと、その子は他の子のアサガオの育ちに比べ、少し遅れていることを気に病んでいたのかもしれませんが、**お水をあげて根気強くお世話をしているうちに、その種なりのスピードで、今大きくなってきている**のでしょう。



このことは、植物の成長に限ったことではないように思います。しっかり努力してみたところで、なかなか成果が出ずに「苦勞したことが無駄だった」「こんなだったら、やるんじゃなかった」と思ったことは誰しもあるのではないのでしょうか？しかし、それでも、**「蒔いた種は必ず成長する」ことを信じて、水を与え続けるような努力を怠らなければ、その成果はいつか突然訪れます**。“逆上がりの練習を出来なくてもこつこつ積み重ねていると、ある日突然できるようになったこと”“自転車に乗る練習で、最初はフラフラしてすぐに転んで膝を擦りむいてしまっていたのが、ある時突然、スイーッと乗れるようになったこと”等のご経験をされた方はたくさんいらっしゃるでしょう。そして、その**成功や成長の時期は、人それぞれに違っている**ことと思います。



アサガオの種と同じように、一人一人違った存在の子どもですので、いつのどの時点で成長を見せるかは、それぞれに違って当然です。伸びる時期があるのでしょう。その時期が来るまで、慌てず、しっかりと“アサガオにとっての水”を与え続けておきたいものです。運動や勉強、楽器の演奏、個人で取り組む様々なチャレンジ等について、このことは当てはまるのではないのでしょうか。学校においても、個々の子どもの違いを受け止めながら、突然訪れる伸びを信じて、毎日こつこつと努力する子ども達の成長を支えてあげたいと思います。